

アンナプルナ・サーキット&アンナプルナBC紀行(その1)

深澤 裕

◎期間 2014年9月30日(火)～10月21日(火)(22日間)

◎メンバー 深澤 裕(単独) ガイド1名

1. はじめに

初めてのネパールは1985年、29年前の2月でした。新婚旅行でカトマンズとポカラを訪れました。エベレスト・フライト体験をしたのを懐かしく思い出します。当時のポカラ空港は牧場でした。今回、ネオンに瞬くポカラ・レイクサイドやバイクの喧噪のカトマンズには驚かされました。しかし、ペワ湖から眺めるマチャプチャレやアンナプルナ山群の姿は変わっていませんでした。

アンナプルナ・サーキット&アンナプルナBCを歩こうと思ったのは、そのとき眺めたマチャプチャレやアンナプルナ山群の広大な姿に魅せられたからです。心の中に温めていた思いを、やっと実現できるという喜びに満ちていました。

3月に退職し、4月からハウスバンドとして生活する中、毎日、近くのジムに通い、少しずつ身体を絞っていきました。富士山にも何度か登り高度順応し、準備しました。何しろ人生で初めてのロングトレッキングなので不安だらけです。今回はポーターを使わず25kgのザックを背負って、ガイドと二人で歩くことを目標の一つにしました。絶対に無理をせず、怪我や遭難は避け、安全登山を心がけようと決めていました。

山なかまシリウスの深澤 淳さんに紹介していただいたカトマンズのSangrila Trail Walk Treks & Expeditionのスタッフの方々にはお世話になりました。特にガイドのチリン・シェルパさんは、ネパールの文化や自然について多くのことを教えていただき感謝です。彼は日本語も堪能です。何度も20人程度の大きなパーティーのガイドリーダーをしたそうです。充実した時間を過ごせました。社長のヤム・グルンさんは元グルカ兵で、嘗てはサウスコルに4回も酸素ボンベを持って上がったそうです。

飛行機はカタール航空を使いました。羽田→ドーハ→カトマンズという経路でトランジットも長かったのですが、往復66000円は魅力的でした。燃料チャージが35000円。21泊22日のトレッキング料金は\$1590でした。この中にはガイド料金。トレッキング中の2人の全宿泊費、全食事代。休憩時の飲み物一回分。TIMS(トレッキング許可証)取得。アンナプルナ入域許可証取得。カトマンズベースサハール移動代金。フェディー→ポカラ移動タクシー代金等が含まれています。22日間で20000円をルピー(RS)に換え、酒・つまみ・水・ホットシャワー代などに使いました。100円=87RS US\$1=108円。以下、今回のアンナプルナ・サーキット&アンナプルナBCの行程表を書いておきます。

《21泊22日 アンナプルナ・サーキット&アンナプルナBC行程表》

| | |
|-------|--|
| 9月29日 | 21:00カトマンズ着 サングリラゲストハウス泊 |
| 30日 | アンナプルナ・サーキット トレッキング開始 晴天 車でカトマンズ～ベースサハール(820m) トロンピークGH泊 |
| 10月1日 | ベースサハール(820m)～テディ(920m) 歩行5時間 晴天 ホテルトレッキング GH泊 |
| 2日 | テディ(920m)～ジャガット(1290m) 歩行6時間 晴天 チベッタン・ペンパ GH泊 |
| 10月3日 | ジャガット(1290m)～ダラパニ(1920m) 歩行6時間 晴天 ホテル・キングフィッシャーコテージ泊 |
| 4日 | ダラパニ～チャメ(2630m) 歩行6時間 晴天 露天風呂あり マルジャングテディマンダラホテル泊 |
| 5日 | チャメ(2630m)～ヒサン(3190m) 歩行6時間 晴天 エココテージ GH泊 |

| | |
|-----|--|
| 6日 | ヒン(3190m)～マソ(3520m) 歩行6時間 晴天 村チヨ GH 泊 |
| 7日 | マソ(3520m)～ヤッカカ(4050m) 歩行6時間 晴天 ホテル・ガンカブ 泊 |
| 8日 | ヤッカカ(4050m)～トン・ハイキャンプ(4833m) 歩行7時間 晴天 トン・ハイキャンプ ホテル泊 |
| 9日 | トン・ハイキャンプ(4833m)～トン・パス(5416m)～ムクチナト(3760m) 歩行11時間 晴天 ノースポール・ホテル泊 |
| 10日 | ムクチナト(3760m)～カグベニ～ジヨムソ(2713m) 歩行6時間 晴天 ムンライト GH 泊 |
| 11日 | ジヨムソ(2713m)～カサ～外パニ(1189m) バスで4時間 晴天 露天風呂あり オールドカマラ GH 泊 |
| 12日 | 外パニ(1189m) 晴天 休養日 オールドカマラ GH 泊 |
| 13日 | 外パニ(1189m)～コレパニ(2853m) 歩行6時間 夕方から雨 トクエビーク・ビュー GH 泊 |
| 14日 | コレパニ(2853m) 暴風雨で停滞 4000m以上はブリサートでアンナブ 村サキット近辺では 32名死亡、200名が救出との報道 トクエビーク・ビュー GH 泊 |
| 15日 | ブービル(3190m)歩行2時間 午前中曇、午後晴天 コレパニ(2853m)～タダパニ(2713m) 歩行4時間 アンナブ 村 GH 泊 |
| 16日 | タダパニ(2713m)～シヌ(2360m) 歩行7時間 晴天 ヒルトップ GH 泊 |
| 17日 | シヌ(2360m)～マチャブチャレ BC(3710m)歩行8時間 午前中晴天午後曇 マチャブチャレ GH 泊 |
| 18日 | マチャブチャレ BC(3710m)～アンナブ 村 BC(4130m) 歩行3時間 マチャブチャレ BC(3710m)～バンブー(2310m) 歩行6時間 晴天 グリンビューロッジ 泊 |
| 20日 | ジヌー(1780m)～ダンプス(1650m) 歩行8時間 晴天 ホテル・ヤマクラ泊 |
| 21日 | ダンプス(1650m)～フェティ(1220m) 歩行2時間 タクシーでボカラ 昼食後トレッキング 終了解散 |

2. ベシサハール (820m) からチャーメ (2630m) まで

～～ヒンズー教の文化圏、「ダサイン」のお祭り～～

9月30日、7時。ヤム・グルンさんの車でガイドのチリン・シェルパさんをピックアップし、カトマンズからベシサハールまで送ってもらいます。約6時間のドライブです。ベシサハールはカトマンズとポカラを結ぶ幹線道路の中間地点から少し北のほうにある町です。途中で水田が広がり、畦道には大豆が植えられています。棚田も多く、日本の水田風景にかなり近く、ほっとします。

カトマンズの街に、100頭くらいの山羊が群れていたの「何であんなに山羊が街中にいるのか」と聞くと「今日からヒンズーの祭が始まるので、山羊を市場に連れて行く」とのこと。その意味が分からないので再度聞くと「ダサインの祭で生贄にするため」と言われました。

生贄は神様に命を捧げ、殺すこととは知っていましたが初めて体験しました。翌日から村々をトレ

ッキングすると道端で山羊や水牛を生贄にする様子が見られ、かなりショックでした。チリンさんは仏教徒なので生き物を殺すのを見たくないと言って避けていました。私は好奇心が強く一度見てみたいと思い、生贄の儀式をしっかりと見ました。命を頂くというのは残酷であります。しかし、村の人々は生贄



(棚田風景)

の肉をバケツやたらいを持って喜び顔で取りに来ていました。

ダサインの祭というのはヒンズー教の最大の祭だそうです。祭は9月30日の新月から10月20日の満月まで約3週間以上続くそうです。その間、学校・会社は休み。家族や親戚が集い、美味しい生贄の肉料理をいただくそうです。トレッキングの間、綺麗な民族衣装を着てお化粧をした女性や子どもを多く見かけました。マルジャンディー河沿いのトレッキングで通過する村はこの祭の最中だったわけです。



(ダサインの祭りでお喋りする女性達)

この村の辺りはヒンズー教徒が多く、道端にガンジャの葉(マリワ)が雑草に混じって多くはえていました。

チリンさんに聞くと「ガンジャはヒンズーのお祭りに欠かせない。祭の間はみんな吸うが、警察も祭の間は見ても見ぬふりをする。ネパールでは毎日お祭りがあるので何かにつけては吸っている。」そうです。あんまりオープンなので驚きました。旧道は、村の中を通ります。村では水牛・山羊・鶏・犬・猫・雀などの生き物が混在して生活しています。村人が苦瓜・水牛の肉・玉蜀黍・大蒜などを庭や屋根に広げ、干しています。太陽の恵みを十分に活用している姿に感動します。

10月1日、マナスルが展望できるカフェがありました。ここからしか展望できないと聞いたので、ゆっくり双耳峰を楽しみました。この辺りからはアンナプルナの前衛のラムジュンヒマール(6983m)がときどき見え始めます。アンナプルナとは「豊かな作物を授けてくれる神様がいる所」という意味だそうです。貧しいけれど豊かな生活です。



(マナスルを見上げながらトレッキング開始)



(ネパールの定食、ダルバート)

3. チャーメ (2630m) からピサン (3190m)、トロン・パス (5416m) まで

~~チベット仏教の文化圏~~

チャーメの村(2630m)に入ると、チベット仏教の文化圏となり、風景が一変します。村の入り口に門があり、道の真ん中にマニ車が現れます。マニ車とはお経を中に入れた缶を回すものです。一回まわすと、一回お経を読んだことになるそうです。チリンさんはマニ車を見つけると必ず回していました。チベット仏教圏はヒンズー教の文化圏と違い、厳しい自然に晒されています。針葉樹林帯にはいります。この辺りは標高が高くなり、米が作れなくなります。

その代わりに麦や粟やひえや蕎麦を作っています。リンゴの木も多く、道端でリンゴを売る人も増えてきました（1個 20RP）。しかし宗教的なエネルギーは凄まじく、仏教に対する思いがひしひしと伝わってきました。

家の周りにはタルチョ（お経を印刷した旗・青白赤緑黄の5色）がたなびいています。マニ車やマニ石（お経を彫った石）などが道の至るところに現れてきます。巨大な岩にもお経が彫ってあるのには驚きました。もう日本にはこのような宗教的エネルギーはないと思います。日本にもクリスマスやバレンタインや初詣など文化としての宗教が残っていますが、チャーメ辺りの濃さには圧倒されました。

次の村、ピサンに着くと、更に状況は一変します。ピサンピーク（6091m）が北に聳えています。この山は、聖なる山カイラスに似ています。南にはアンナプルナⅡ峰（7937m）・Ⅳ峰（7525m）が横たわります。アンナプルナサーキットの核心部に入ってきたという実感がします。凄い迫力です。東の方の一枚岩の上に地元の人たちが「天国の門」と呼ぶ聖地がありました。ピサンはチベット仏教の完結した村であると感じました。

ここでは早朝5時に、村のゴンパ（お寺）を訪れました。GHを出発し、ヘッドランプを使って真っ暗な道をゴンパに向かいます。ゴンパの前では「聖なる檜の葉」を燃やす良い香りがします。この辺りは森林限界を越え、檜や菩提樹などがころうじて生えています。檜は日本でも「檜風呂」として香りを楽しんでいますが、村の人もこの「聖なる葉」を自宅の前などで燃やして香りを楽しんでいました。ピサンには80家族ほどが暮らしているようですが、これだけのゴンパを維持するにはものすごい信仰心とエネルギーが必要だと感じました。

このゴンパには修行僧が7人いるそうです。ゴンパの内側は電気が灯き、輝き、豪華絢爛です。村人の質素な生活と比べると圧倒的に派手な色彩で飾られています。村の人たちにとって極楽浄土とはこのようなイメージなののでしょうか。6時になると、銅鑼を叩き始め、笛を吹き鳴らしながら僧たちが経を唱え始めます。何人かのトレッカーも御堂の内に入り、神妙にお経を聴いています。お経が終わると僧たちから参詣者にレモンティーが振る舞われました。朝日に輝くアンナプルナを眺めながら、熱く甘いティーを呑み、時を忘れしました。

このサーキットの東側のコースでは多くの外国人と知り合いになりました。日本人とは誰も出会っていませんが、フランス人・イタリア人・ドイツ人・イスラエル人・南アフリカ人・イギリス人・スペイ



（ピサンから朝日に輝く左アンナプルナⅡ峰、右同Ⅳ峰）



（ゴンパで読経を聞くトレッカー）

ン人・中国人（上海）と多くの国のトレkkerがいました。TIMSのチェックポイントで何人くらいがこの辺りを通過したのか聞いてみると、この日は80人位だと教えてくれました。何故かアメリカ人とは一人も出会いませんでした。チリンさんに聞くと「彼らはエベレスト街道が好きなのだ」と言っていました。

マナン（3520m）はこのコースで最も奥深い村です。この先はトロン・パス（5416m）を越え聖地ムクチナート（3760m）までは村はありません。GHはありますが、岩と砂漠の荒涼とした風景が続きます。この辺りになるとGHの料金や飲み物の料金も高くなります。バツィー（お茶屋）で呑んだ「ジンジャーハニー・レモンティー」は250RPもしました。（カトマンズで30RPの水がここでは100RPもします）。砂漠の岩山の上の方にラサを思わせるような寺院があります。マナンでは高所順応のため一日休養するつもりでしたが、体調も良く、高山病の症状も出ていないので、チリンさんと相談してヤッカルカ（4050m）まで行くことに決めました。

ヤッカルカからは南にガンガプルナ（7454m）が勢いよく聳えているのが見えます。北にはチュルーイースト（6429m）、チュルーセントラル（6584m）、チュルーウェスト（6419m）が屹立しています。ここではお散歩をして高度順応をします。この辺りは夏場に山羊の放牧場になっているようで、糞や牧草や細い道が至る所にありました。

次の日はトロンパス・ハイキャンプ（4833m）まで一気にいきます。かなり酸素が薄くなり苦しかったのですが、高山病にもならず食事も美味しく頂きました。

10月9日はこのコースのハイライト。トロン・パス（5416m）越えです。ここから聖地ムクチナート（3760m）まで約11時間を歩きます。チリンさんは「トロンパスは昼ごろから風が激しくなるので、午前中に越えないといけない」と言います。風が吹く前に下山するのが鉄則だそうです。朝3時に起床。パッキングしてユニクロのヒートテックを2枚、持っている衣類を余さず着込みます。スパッツもはきます。4時にチリンさんが呼びにきます。朝食をとって25kgのザックを背負います。ヘッドランプの明かりを頼りにゆっくりとトロン・パスに向かいます。ヘッドランプの明かりが前のほうで揺れています。20人ほどが前方を歩いています。6時頃にガンガプルナ方面から朝日が昇り始めます。空気が澄んでいるので山の陰のコントラストが目には痛いのです。

5時間かかり、やっとトロン・パスに到着しました。峠にはバツィーが一軒だけありました。ここからの展望は凄まじく、東南にアンナプルナⅢ峰（7555m）・ガンガプルナ（7454m）が広がります。抜けるような紺碧の空にタルチョがたなびいています。多くのトレ



（ヤッカルカからガンガプルナ）



（タルチョたなびくトロン・パス。ガイドのチリンさんと）

